

普及だより

きみつ

〒292-0833 木更津市貝渕3-13-34 TEL. 0438(23)0299  
https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/ FAX. 0438(23)6698

発行  
千葉県君津農業事務所  
編集  
千葉県君津農業事務所  
改良普及課



生産者と連携した農薬試験ほの設置



生産者と連携した施肥試験ほの設置



品種比較試験の収穫物

レタスの安定生産に向けた試験の実施  
〜歴史あるレタス産地の更なる発展を目指して〜

君津地域では、小櫃川沿いの水田地帯を中心に裏作野菜としてレタスが栽培されており、木更津市、君津市、袖ヶ浦市は冬レタスの指定産地となっております。また、富津市の天羽地区でも栽培が行われています。  
現在、生産現場では、近年の世界情勢や地球温暖化の影響による異常気象等により、生産資材価格の高騰、病害虫の多発生など、レタスを安定生産するうえで様々な課題があります。  
そこで、農業事務所では、より安定的なレタス生産を支援するため、令和5年作のレタスにおいて、生産者やJA等と連携し、農薬比較試験や品種比較試験、鶏ふん堆肥を用いた施肥試験を実施しました。  
試験結果については、JAと連携し、栽培講習会で生産者の方々に周知し、巡回指導等を通じて技術導入を支援しています。  
農業事務所では、今後も安定的なレタス生産に資する試験を実施していくとともに、研修会等を通じて生産者の皆様に様々な情報提供を行い、レタス産地を支援していきます。これらの試験結果の詳細については、農業事務所改良普及課までお問い合わせください。  
(柴田・鈴木)

環境にやさしい農業に  
取り組んでみどり認定を  
受けてみませんか。

令和5年度より、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現するための法律「みどりの食料システム法」に基づく認定制度が始まりました。  
農業者は、環境負荷の低減に取り組み5年間の環境負荷低減事業活動実施計画を作成し、知事の認定を受けることができます。  
● 認定を受けるメリット  
一 対象となる設備を導入した場合、税制優遇が受けられます。  
二 日本政策金融公庫の無利子融資等が活用できます。  
三 様々な国庫補助金の採択で優遇されます。  
四 環境負荷低減事業活動の一例  
土づくり、化学肥料・化学農薬の使用低減の  
一体的取組  
二 温室効果ガスの排出量の削減(水田作での秋耕、ヒートポンプの導入、省エネ機械の導入等)  
三 その他(バイオ炭の農地への施用、プラスチック資材の排出・流出の抑制等)  
● 申請手続き  
実施計画及び認定申請書を作成し、農業事務所企画振興課にご提出ください。申請書は農業事務所での配布又は県ホームページから入手できます。※土づくり、化学肥料・化学農薬の使用低減に取り組む場合、取組ほ場の「土壌診断結果」の添付が必要です。

千葉県農業士協会君津支部では、令和5年11月29日から30日の2日間、県外視察研修として岡山県に行ってきました。1日目は、令和4年に日本農業賞集団組織の部の大賞に選出された倉敷市のぶどう部会を視察し、高品質生産の工夫について伺いました。各部会員の栽培面積は約70a、労働力3名程度の家族経営がほとんどですが、周辺農家と協力してハウス施工することで経費を抑えたり、ブドウ専用の揚水機を整備して干ばつを回避したりなど、部会内で協力することで産地を維持していました。2日目はスマート農業を先進的に導入している赤磐市の大規模水稲経営体を視察し、導入成果を伺いました。自動操舵トラクターやほ場管理システムなどのスマート農業技術

千葉県農業士協会  
君津支部活動報告  
〜県外視察in岡山〜



視察研修の様子

を導入することで、作業の効率化やほ場ごとに米のランク付けを行い、用途に応じて販売先を分けることで販売価格の向上を実現していました。視察研修に参加した農業士会員からは、「他地域の知らなかった工夫や技術を学ぶことができた。自分の経営に活かせる部分を参考にし、自分の経営を発展させていきたい。」といった感想をいただきました。今後も千葉県農業士協会君津支部では、会員の経営・技術の向上を目指して活動を続けていきます。  
(富澤)

千葉県立農業大学校  
令和7年度入学生募集  
本県農業の担い手及び指導者を目指す入学生を募集します。

- ▼募集人員 農学科 80名、研究科 20名(推薦入学で募集する者を含む)
- ▼試験期日
- 【推薦入学】  
令和6年10月17日(木)
- 【一般入学】  
令和7年1月9日(木)
- 令和7年2月13日(木)
- ▼願書受付
- 【推薦入学】 令和6年9月13日(金)〜9月27日(金)
- 【一般入学】
- A日程 令和6年12月2日(月)〜12月13日(金)
- B日程 令和7年1月20日(月)〜1月31日(金)
- ▼試験会場  
千葉県立農業大学校
- ▼問合せ先  
千葉県立農業大学校  
(0475)5121

**2月どりキャベツの品種比較  
試験を実施しました！**  
〜加工業務用キャベツの  
安定出荷に向けて〜

**【背景及び目的】**

君津地域では、キャベツの生産が盛んに行われており、主に加工業務向けに、11月から6月まで出荷されています。

2月どりの作型では、寒さによる障害として、凍結による内部黒変症状や、外葉の腐敗等が問題となっています。そこで、2月どりキャベツに適する品種選定のため、品種比較試験を実施しました。

**【試験の概要と結果】**

地域で多く栽培されている品種を慣行品種とし、生産者及び関係機関と協議の上、5つの品種を試験品種として選定しました。試験ほ場は、袖ヶ浦市2か所及び君津市1か所に設置しました。

それぞれの品種において、発芽調査、定植後の生育調査及び収穫物調査を行いました。収穫物は、JAきみつ平川経済センターで展示を行い、生産者及び関係機関を参集して活発



キャベツ展示会の様子

な情報交換が行われました。販売業者からは、展示したキャベツの品評をいただきました。

生産者及び関係機関の評価や調査結果から、2月どりキャベツに適する有望品種を複数選定することができました。しかし、単年度のみの試験では、品種の特徴をつかむことは難しいため、選定した品種について今年度も引き続き調査を行っていきます。

(神子島)

**田植機の外付け自動操舵システム  
実演会を行いました！**

昨今、農作業の省力化や効率化、また精度の向上といった観点からスマート農業の導入が進んでいます。その代表的な技術の一つである自動操舵システムは、複数の衛星や基地局から位置情報を受信し、地形に合わせて自動操縦を行うもので、田

植え作業においても、負担軽減や、農作業経験に関わらず正確な作業が可能となります。

利用するには、システム搭載田植機を導入するか、既存の田植機に専用受信機、ハンドルやモニターを外付けすることが必要となります。後者であれば導入費用を抑えられることから、君津地域でも導入を検討する声が聞かれています。

このような背景から、農業事務所では販売メーカーや生産者と協力し、令和6年5月2日に袖ヶ浦市内にて外付け自動操舵システムの実演会を開催しました。

当日は、メーカーからコスト、機能等の説明を受けた後、システムを外付けした田植機にて実際に田植え



システムを利用した田植えの様子

を行い、その様子を参加者に見ていただきました。

今回、システムを利用した生産者からは、「作業負担が明らかに軽減した。」「周囲を確認しながら田植えができ、作業が早くなった。」といった意見をいただきました。また現場では、参加者から耐久性や機能性に関する質問も上がり、活発な情報交換の場となりました。

農業事務所では、今後とも、地域の声も鑑みながら、実演会等を通じて生産者に有益となるような技術の紹介を行い、その導入を支援していきます。

(鈴木)

**空いている土地で枝物栽培に  
挑戦してみませんか？**  
〜アカシア、ユーカリ栽培の  
ススメ〜

**【枝物栽培の魅力】**

枝物栽培は、露地栽培が可能なので、耕作放棄地等の空いている土地を活用することが可能です。

全国的に枝物生産者が減少していましたが、東京市場の需要があり新規生産者が徐々に増えています。

**【主な栽培管理】**

初めは苗を購入するのが一般的で、春先に定植し、支柱での固定、施肥、病害虫の防除、定植後と夏季に日照りが続く場合のかん水、主幹のせん定(台刈り)、草刈り等の管理が必要になります。

**【ほ場選定】**

排水性と保水性がよく、朝日が差し込む、日当たりのよいほ場を選定しましょう。成木になると倒れやすいため、場合によっては防風ネットを張ることもお勧めします。ほ場を分散させて、育ちがよい樹を残すことも有効です。

**【導入の注意点】**

ほ場と相性が悪い(排水性や通風



ユーカリの葉



ギンヨウアカシアの花

性、日当たり等)と生育不良や枯れが発生します。台風による風害や塩害、寒害(生育限界がマイナス5度)、夏季の日照りによる干害、その他病害虫等の被害があります。また、アカシアやユーカリは生育が早い因此、きちんと主幹のせん定をしないと樹が大きくなりすぎて作業性が悪くなったり、強風で倒れやすくなったりします。

詳しい栽培方法を知りたい場合は、農業事務所改良普及課までお問合せください。(後藤)

**レタスの産地維持に向けた  
視察研修会を開催しました！**  
〜JAやさととの取組を視察〜

君津地域では、古くから水稲裏作でのレタス栽培が行われていますが、近年、生産者の高齢化や後継者不足、レタス価格の低迷等により、レタス生産者の減少が懸念されています。

そこで当事務所では、関係機関や生産部会等が連携して生産者の育成・確保に取り組む事例を学び、君津地域の対策の一助とすることを目的として、令和6年1月19日に、視察研修会を開催しました。視察研修会では、茨城県石岡市のJAやさとを訪問し、君津地域のレタス生産者、市役所、JAが参加しました。

やさと地域では、かねてから有機農産物の栽培が行われており、年々減少していく生産者の確保・育成を目的として、平成11年に新規就農者研修制度を発足させました。本制度では、毎年、概ね45歳までの研修生1家族を、2haの有機JAS認定ほ場やトラクタ、ビニールハウス等の施設を完備した研修農場「ゆめファームやさと」で2年間受け入れていま



研修修了者の感想を聞く様子

す。また、栽培指導や研修終了後の農地の確保支援を先輩部会員が、研修期間中の就農支援金の支給や販路の確保をJAやさとが、住居や各種事業の情報提供を市や普及センターが担い、地域一丸となって担い手を支援することで、就農後の定着率も高く維持されています。

視察研修会の参加者からは、「新規就農者の興味を引くような産地のPRや、他産地との差別化が必要。」といった意見をいただきました。

農業事務所では、今後も関係機関と連携し、レタスはもとより地域農業の担い手の育成・確保に向けた取組を行っていきます。(柴田)